

# 平成31・令和元年度 決算報告



## 平成 31・令和元年度 決算報告 概要

1. 貸借対照表	32
2. 貸借対照表内訳表	33
3. 正味財産増減計算書	34
4. 正味財産増減計算書内訳表	37
5. 財務諸表に対する注記	39
6. 附属明細書	41
7. 財産目録	42

前年度（平成 30 年度）決算より、貸借対照表において「未収会費」を計上している。当年度の流動資産は、前年度より 9,790 万 888 円増加し、2 億 7,651 万 8,558 円となった。そのうち、当年度末における未収会費は、2,256 万円である。正味財産合計は、5 億 5,811 万 1,265 円となり、前年度より 1 億 1,787 万 4,139 円（26.8%）増加した。

正味財産増減計算書より、経常収益は 6 億 5,845 万 903 円となり、前年度より 3,972 万 7,807 円の増収となっている。その要因は、事業収益における「講習会受講費」、「学術大会登録費」、および「被ばく適正化施設認定収益」の増加によるものである。「講習会受講費」は、当年度が統一講習会の全国開催最終年度となったことによる受講者の著しい増加が主な要因となっている。また、正会員が増加しているにも拘らず「正会員受取会費」が 4 億 4,509 万 2,000 円となり、前年度より 1,993 万 9,000 円の減少となった原因は、2018 年度から「未収会費」を計上することにより 2017 年度分の会費が 2018 年度に 1,924 万 2,000 円上乗せされていることと、当年度より実施した 65 歳以上の会員の会費減免により、494 万 9,000 円の会費収入が減少したことが原因となっている。経常収益のうち会費収益が 67.6%、事業収益が 29.7%で、予算に対する収入率は 119%となった。

経常費用は 5 億 2,763 万 8,364 円となった。内訳は、事業費 3 億 9,160 万 8,984 円となり、対予算 1,397 万 1,816 円の減少、管理費 1 億 3,602 万 9,380 円となり、対予算 1,562 万 620 円の減少となっている。

当年度の公益目的事業収益は 4 億 2,679 万 8,976 円、同費用は 3 億 7,128 万 1,534 円であり、差額は 5,551 万 7,442 円のプラスとなり、収支相償が満たされなかったため、余剰金としてすべて令和 2 年度の公益目的事業に充当するものとする。また、2 年連続の黒字収支となったので、前年度の余剰金 1,176 万円のうち特定資産計上の 890 万円を差し引いた 286 万円を加え、余剰金 5,837 万 7,442 円となり、端数をまとめ 6,000 万円として余剰金解消計画を立てることとする。なお、公益目的事業比率は、70.4%であった。

### 2019 年度決算額

経常収益	6 億 5,845 万 903 円
経常費用	5 億 2,763 万 8,364 円
当期経常増減額	1 億 3,081 万 2,539 円
正味財産期末残高	5 億 5,811 万 1,265 円
次期繰越流動資産	2 億 7,651 万 8,558 円
余剰金	6,000 万円

# 貸借対照表

令和2年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	248,856,608	151,042,696	97,813,912
未収会費	22,560,000	20,637,000	1,923,000
未収金	785,270	293,824	491,446
貯蔵品	199,517	1,434,856	△ 1,235,339
前渡金	4,253,133	4,224,124	29,009
立替金	134,130	164,410	△ 30,280
1年以内回収予定長期貸付金	350,000	192,000	158,000
仮払金	5,019,900	5,208,500	△ 188,600
徴収不能引当金	△ 5,640,000	△ 4,579,740	△ 1,060,260
流動資産合計	276,518,558	178,617,670	97,900,888
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
学術奨励基金	200,693,072	200,624,179	68,893
社会活動奨励基金	750,000	830,000	△ 80,000
第37回学術大会特定資産	8,900,000	0	8,900,000
eラーニング新コンテンツ特定資産	40,000,000	0	40,000,000
事務所移転費用特定資産	20,000,000	0	20,000,000
特定資産合計	270,343,072	201,454,179	68,888,893
(3) その他固定資産			
建物付属設備	640,438	960,651	△ 320,213
什器備品	937,987	1,531,984	△ 593,997
ソフトウェア	14,094,832	32,478,308	△ 18,383,476
ソフトウェア仮勘定	0	12,938,400	△ 12,938,400
長期貸付金	1,050,000	1,400,000	△ 350,000
差入保証金	35,256,642	35,256,642	0
その他固定資産合計	51,979,899	84,565,985	△ 32,586,086
固定資産合計	322,322,971	286,020,164	36,302,807
資産合計	598,841,529	464,637,834	134,203,695
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	27,712,643	19,043,119	8,669,524
未払費用	1,073,844	1,461,670	△ 387,826
前受金	0	925,200	△ 925,200
預り金	9,972,921	1,824,554	8,148,367
賞与引当金	1,970,856	1,146,165	824,691
流動負債合計	40,730,264	24,400,708	16,329,556
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	40,730,264	24,400,708	16,329,556
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
(うち基本財産への充当額)	( 0 )	( 0 )	( 0 )
(うち特定資産への充当額)	( 0 )	( 0 )	( 0 )
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	( 0 )	( 0 )	( 0 )
(うち特定資産への充当額)	( 270,343,072 )	( 201,454,179 )	( 68,888,893 )
正味財産合計	558,111,265	440,237,126	117,874,139
負債及び正味財産合計	598,841,529	464,637,834	134,203,695

# 貸借対照表内訳表

令和2年3月31日現在

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合 計
<b>I 資産の部</b>					
<b>1. 流動資産</b>					
現金預金	21,014,644	0	227,841,964		248,856,608
未収会費	11,280,000	0	11,280,000		22,560,000
未収金	785,270	0	0		785,270
貯蔵品	102,518	0	96,999		199,517
前渡金	2,653,505	0	1,599,628		4,253,133
立替金	0	0	134,130		134,130
1年以内回収予定長期貸付金	0	350,000	0		350,000
仮払金	5,000,000	0	19,900		5,019,900
徴収不能引当金	△ 2,820,000	0	△ 2,820,000		△ 5,640,000
流動資産合計	38,015,937	350,000	238,152,621	0	276,518,558
<b>2. 固定資産</b>					
(1) 基本財産					
基本財産合計	0	0	0	0	0
(2) 特定資産					
学術奨励基金	0	200,693,072	0		200,693,072
社会活動奨励基金	0	750,000	0		750,000
第37回学術大会特定資産	8,900,000	0	0		8,900,000
eラーニング新コンテンツ特定資産	40,000,000	0	0		40,000,000
事務所移転費用特定資産	20,000,000	0	0		20,000,000
特定資産合計	68,900,000	201,443,072	0	0	270,343,072
(3) その他固定資産					
建物付属設備	422,689	0	217,749		640,438
什器備品	754,287	0	183,700		937,987
ソフトウェア	9,025,370	0	5,069,462		14,094,832
長期貸付金	0	1,050,000	0		1,050,000
差入保証金	23,269,383	0	11,987,259		35,256,642
その他固定資産合計	33,471,729	1,050,000	17,458,170	0	51,979,899
固定資産合計	102,371,729	202,493,072	17,458,170	0	322,322,971
<b>資産合計</b>	<b>140,387,666</b>	<b>202,843,072</b>	<b>255,610,791</b>	<b>0</b>	<b>598,841,529</b>
<b>II 負債の部</b>					
<b>1. 流動負債</b>					
未払金	24,429,721	0	3,282,922		27,712,643
未払費用	380,988	0	692,856		1,073,844
預り金	8,564,900	0	1,408,021		9,972,921
賞与引当金	1,244,754	0	726,102		1,970,856
流動負債合計	34,620,363	0	6,109,901	0	40,730,264
<b>2. 固定負債</b>					
固定負債合計	0	0	0	0	0
<b>負債合計</b>	<b>34,620,363</b>	<b>0</b>	<b>6,109,901</b>	<b>0</b>	<b>40,730,264</b>
<b>III 正味財産の部</b>					
<b>1. 指定正味財産</b>					
指定正味財産合計	0	0	0		0
(うち基本財産への充当額)	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( )	( 0 )
(うち特定資産への充当額)	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( )	( 0 )
<b>2. 一般正味財産</b>					
一般正味財産合計	105,767,303	202,843,072	249,500,890		558,111,265
(うち基本財産への充当額)	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( )	( 0 )
(うち特定資産への充当額)	( 68,900,000 )	( 201,443,072 )	( 0 )	( )	( 270,343,072 )
<b>正味財産合計</b>	<b>105,767,303</b>	<b>202,843,072</b>	<b>249,500,890</b>	<b>0</b>	<b>558,111,265</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>140,387,666</b>	<b>202,843,072</b>	<b>255,610,791</b>	<b>0</b>	<b>598,841,529</b>

# 正味財産増減計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	2,674,393	2,674,393	0
学術奨励基金受取利息	2,674,393	2,674,393	0
受取入会金	7,165,000	5,260,000	1,905,000
受取入会金	7,165,000	5,260,000	1,905,000
受取会費	445,092,000	465,031,000	△ 19,939,000
正会員受取会費	445,092,000	465,031,000	△ 19,939,000
事業収益	195,879,676	139,019,574	56,860,102
講習会受講料等収益	144,054,600	91,567,500	52,487,100
学術大会参加登録費収益	26,327,000	22,861,000	3,466,000
広告収益	21,332,680	22,361,590	△ 1,028,910
被ばく適正化施設認定収益	3,323,000	1,280,000	2,043,000
団体保険手数料収益	842,396	949,484	△ 107,088
受取補助金等	2,100,000	1,400,000	700,000
学術大会開催助成金	2,100,000	1,400,000	700,000
受取寄付金	770,000	90,000	680,000
受取寄付金	770,000	90,000	680,000
雑収益	4,769,834	5,248,129	△ 478,295
受取利息	3,009	1,837	1,172
その他雑収益	4,766,825	5,246,292	△ 479,467
経常収益計	658,450,903	618,723,096	39,727,807
(2) 経常費用			
事業費	391,608,984	386,424,968	5,184,016
役員報酬	5,749,800	6,094,788	△ 344,988
給料手当	17,726,494	12,578,465	5,148,029
通勤手当	1,135,731	733,606	402,125
賞与引当金繰入	726,102	371,971	354,131
退職給付費用	341,760	429,760	△ 88,000
臨時雇賃金	5,665,858	10,641,135	△ 4,975,277
法定福利費	3,433,576	3,212,051	221,525
福利厚生費	105,356	53,495	51,861
旅費交通費	23,863,646	42,935,614	△ 19,071,968
通信運搬費	31,025,611	27,811,159	3,214,452
減価償却費	12,987,604	24,916,116	△ 11,928,512
消耗什器備品費	69,241	0	69,241
消耗品費	9,202,140	5,086,192	4,115,948
修繕費	669,627	717,327	△ 47,700
印刷製本費	81,015,047	78,027,197	2,987,850
図書費	683,469	650,964	32,505
光熱水料費	5,137,959	5,170,577	△ 32,618

# 正味財産増減計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
賃借料	24,182,844	24,185,844	△ 3,000
物品賃借料	13,055,780	20,865,592	△ 7,809,812
会場賃借料	13,819,014	5,934,332	7,884,682
保険料	15,961,915	15,468,413	493,502
諸謝金	46,544,520	23,764,259	22,780,261
租税公課	6,891,897	3,854,016	3,037,881
支払負担金	3,045,144	3,021,521	23,623
支払助成金	4,818,177	5,285,033	△ 466,856
委託費	32,577,946	40,621,150	△ 8,043,204
教材費	5,454,269	1,099,772	4,354,497
翻訳料	151,754	108,946	42,808
地域補助費	11,990,000	11,990,000	0
会議費	3,419,485	3,260,120	159,365
支払手数料	3,299,043	3,382,666	△ 83,623
徴収不能引当金繰入	2,720,130	2,289,870	430,260
雑費	4,138,045	1,863,017	2,275,028
管理費	136,029,380	140,554,895	△ 4,525,515
役員報酬	10,153,800	10,330,812	△ 177,012
給料手当	36,654,453	33,218,877	3,435,576
通勤手当	1,651,443	1,500,574	150,869
賞与引当金繰入	1,244,754	774,194	470,560
退職給付費用	738,240	896,240	△ 158,000
臨時雇上賃金	2,578,642	6,797,651	△ 4,219,009
法定福利費	6,869,437	5,698,109	1,171,328
福利厚生費	415,685	299,421	116,264
研修費	19,800	21,100	△ 1,300
会議費	765,460	752,848	12,612
旅費交通費	13,424,310	15,273,794	△ 1,849,484
通信運搬費	2,263,535	3,302,612	△ 1,039,077
減価償却費	7,249,482	11,939,803	△ 4,690,321
消耗什器備品費	530,339	0	530,339
消耗品費	2,842,176	2,650,373	191,803
印刷製本費	1,369,760	1,094,267	275,493
光熱水料費	2,643,706	2,762,184	△ 118,478
賃借料	12,457,824	12,457,824	0
物品賃借料	5,337,330	4,721,282	616,048
会場賃借料	394,200	658,800	△ 264,600
保守費	1,880,640	1,866,240	14,400
修繕費	447,122	385,395	61,727
保険料	1,045,200	1,145,340	△ 100,140
諸謝金	167,990	143,442	24,548
租税公課	190,405	190,290	115
支払負担金	83,470	72,840	10,630
支払寄付金	0	100,000	△ 100,000
支払手数料	4,820,127	3,720,529	1,099,598

# 正味財産増減計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
委託費	9,855,621	10,493,905	△ 638,284
図書費	341,594	326,518	15,076
顧問料	3,393,799	3,355,644	38,155
徴収不能引当金繰入	2,720,130	2,289,870	430,260
雑費	1,478,906	1,314,117	164,789
経常費用計	527,638,364	526,979,863	658,501
評価損益等調整前当期経常増減額	130,812,539	91,743,233	39,069,306
基本財産評価損益等	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	130,812,539	91,743,233	39,069,306
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	12,938,400	0	12,938,400
ソフトウェア仮勘定除却損	12,938,400	0	12,938,400
経常外費用計	12,938,400	0	12,938,400
当期経常外増減額	△ 12,938,400	0	△ 12,938,400
税引前当期一般正味財産増減額	117,874,139	91,743,233	26,130,906
法人税、住民税及び事業税	0	0	0
法人税等調整額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	117,874,139	91,743,233	26,130,906
一般正味財産期首残高	440,237,126	348,493,893	91,743,233
一般正味財産期末残高	558,111,265	440,237,126	117,874,139
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	558,111,265	440,237,126	117,874,139



# 正味財産増減計算書内訳表

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計			収益事業等会計			法人会計	内部取引等消去	合 計
	公 1 事業	共通	小計	収 1 事業	共通	小計			
I 一般正味財産増減の部									
1. 経常増減の部									
(1) 経常収益									
特定資産運用益	0	0	0	2,674,393	0	2,674,393	0		2,674,393
学術奨励基金受取利息	0	0	0	2,674,393	0	2,674,393	0		2,674,393
受取入会金	3,582,500	0	3,582,500	0	0	0	3,582,500		7,165,000
受取入会金	3,582,500	0	3,582,500	0	0	0	3,582,500		7,165,000
受取会費	222,546,000	0	222,546,000	0	0	0	222,546,000		445,092,000
正会員受取会費	222,546,000	0	222,546,000	0	0	0	222,546,000		445,092,000
事業収益	195,037,280	0	195,037,280	842,396	0	842,396	0		195,879,676
講習会受講料等収益	144,054,600	0	144,054,600	0	0	0	0		144,054,600
学術大会参加登録費収益	26,327,000	0	26,327,000	0	0	0	0		26,327,000
広告収益	21,332,680	0	21,332,680	0	0	0	0		21,332,680
被ばく適正化施設認定収益	3,323,000	0	3,323,000	0	0	0	0		3,323,000
団体保険手数料収益	0	0	0	842,396	0	842,396	0		842,396
受取補助金等	2,100,000	0	2,100,000	0	0	0	0		2,100,000
学術大会開催助成金	2,100,000	0	2,100,000	0	0	0	0		2,100,000
受取寄付金	270,000	0	270,000	0	0	0	500,000		770,000
受取寄付金	270,000	0	270,000	0	0	0	500,000		770,000
雑収益	3,263,196	0	3,263,196	0	0	0	1,506,638		4,769,834
受取利息	0	0	0	0	0	0	3,009		3,009
その他雑収益	3,263,196	0	3,263,196	0	0	0	1,503,629		4,766,825
経常収益計	426,798,976	0	426,798,976	3,516,789	0	3,516,789	228,135,138	0	658,450,903
(2) 経常費用									
事業費	371,281,534	0	371,281,534	20,327,450	0	20,327,450	0		391,608,984
役員報酬	5,749,800	0	5,749,800	0	0	0	0		5,749,800
給料手当	17,580,543	0	17,580,543	145,951	0	145,951	0		17,726,494
通勤手当	1,127,620	0	1,127,620	8,111	0	8,111	0		1,135,731
賞与引当金繰入	726,102	0	726,102	0	0	0	0		726,102
退職給付費用	336,000	0	336,000	5,760	0	5,760	0		341,760
臨時雇賃金	5,665,858	0	5,665,858	0	0	0	0		5,665,858
法定福利費	3,415,785	0	3,415,785	17,791	0	17,791	0		3,433,576
福利厚生費	105,356	0	105,356	0	0	0	0		105,356
旅費交通費	23,555,696	0	23,555,696	307,950	0	307,950	0		23,863,646
通信運搬費	30,664,691	0	30,664,691	360,920	0	360,920	0		31,025,611
減価償却費	12,987,604	0	12,987,604	0	0	0	0		12,987,604
消耗什器備品費	69,241	0	69,241	0	0	0	0		69,241
消耗品費	6,648,735	0	6,648,735	2,553,405	0	2,553,405	0		9,202,140
修繕費	669,627	0	669,627	0	0	0	0		669,627
印刷製本費	81,015,047	0	81,015,047	0	0	0	0		81,015,047
図書費	683,469	0	683,469	0	0	0	0		683,469
光熱水料費	5,137,959	0	5,137,959	0	0	0	0		5,137,959
貸借料	24,182,844	0	24,182,844	0	0	0	0		24,182,844
物品貸借料	13,055,780	0	13,055,780	0	0	0	0		13,055,780
会場貸借料	13,819,014	0	13,819,014	0	0	0	0		13,819,014
保険料	308,970	0	308,970	15,652,945	0	15,652,945	0		15,961,915
諸謝金	46,544,520	0	46,544,520	0	0	0	0		46,544,520
租税公課	6,891,897	0	6,891,897	0	0	0	0		6,891,897
支払負担金	3,045,144	0	3,045,144	0	0	0	0		3,045,144
支払助成金	4,738,177	0	4,738,177	80,000	0	80,000	0		4,818,177
委託費	32,053,207	0	32,053,207	524,739	0	524,739	0		32,577,946
教材費	5,454,269	0	5,454,269	0	0	0	0		5,454,269
翻訳料	151,754	0	151,754	0	0	0	0		151,754
地域補助費	11,990,000	0	11,990,000	0	0	0	0		11,990,000
会議費	3,419,485	0	3,419,485	0	0	0	0		3,419,485
支払手数料	2,629,165	0	2,629,165	669,878	0	669,878	0		3,299,043
徴収不能引当金繰入	2,720,130	0	2,720,130	0	0	0	0		2,720,130
雑費	4,138,045	0	4,138,045	0	0	0	0		4,138,045
管理費	0	0	0	0	0	0	136,029,380		136,029,380
役員報酬	0	0	0	0	0	0	10,153,800		10,153,800
給料手当	0	0	0	0	0	0	36,654,453		36,654,453
通勤手当	0	0	0	0	0	0	1,651,443		1,651,443
賞与引当金繰入	0	0	0	0	0	0	1,244,754		1,244,754
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	738,240		738,240
臨時雇上賃金	0	0	0	0	0	0	2,578,642		2,578,642
法定福利費	0	0	0	0	0	0	6,869,437		6,869,437
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	415,685		415,685

# 正味財産増減計算書内訳表

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計			収益事業等会計			法人会計	内部取引等消去	合 計
	公1事業	共通	小計	収1事業	共通	小計			
研修費	0	0	0	0	0	0	19,800		19,800
会議費	0	0	0	0	0	0	765,460		765,460
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	13,424,310		13,424,310
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	2,263,535		2,263,535
減価償却費	0	0	0	0	0	0	7,249,482		7,249,482
消耗什器備品費	0	0	0	0	0	0	530,339		530,339
消耗品費	0	0	0	0	0	0	2,842,176		2,842,176
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	1,369,760		1,369,760
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	2,643,706		2,643,706
貸借料	0	0	0	0	0	0	12,457,824		12,457,824
物品貸借料	0	0	0	0	0	0	5,337,330		5,337,330
会場貸借料	0	0	0	0	0	0	394,200		394,200
保守費	0	0	0	0	0	0	1,880,640		1,880,640
修繕費	0	0	0	0	0	0	447,122		447,122
保険料	0	0	0	0	0	0	1,045,200		1,045,200
諸謝金	0	0	0	0	0	0	167,990		167,990
租税公課	0	0	0	0	0	0	190,405		190,405
支払負担金	0	0	0	0	0	0	83,470		83,470
支払手数料	0	0	0	0	0	0	4,820,127		4,820,127
委託費	0	0	0	0	0	0	9,855,621		9,855,621
図書費	0	0	0	0	0	0	341,594		341,594
顧問料	0	0	0	0	0	0	3,393,799		3,393,799
徴収不能引当金繰入	0	0	0	0	0	0	2,720,130		2,720,130
雑費	0	0	0	0	0	0	1,478,906		1,478,906
経常費用計	371,281,534	0	371,281,534	20,327,450	0	20,327,450	136,029,380	0	527,638,364
評価損益等調整前当期経常増減額	55,517,442	0	55,517,442	△ 16,810,661	0	△ 16,810,661	92,105,758	0	130,812,539
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0		0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0		0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0	0		0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	55,517,442	0	55,517,442	△ 16,810,661	0	△ 16,810,661	92,105,758	0	130,812,539
2. 経常外増減の部									
(1) 経常外収益									
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用									
固定資産除却損	8,280,576	0	8,280,576	0	0	0	4,657,824		12,938,400
ソフトウェア仮勘定除却損	8,280,576	0	8,280,576	0	0	0	4,657,824		12,938,400
経常外費用計	8,280,576	0	8,280,576	0	0	0	4,657,824	0	12,938,400
当期経常外増減額	△ 8,280,576	0	△ 8,280,576	0	0	0	△ 4,657,824		△ 12,938,400
他会計振替前当期一般正味財産増減額	47,236,866	0	47,236,866	△ 16,810,661	0	△ 16,810,661	87,447,934	0	117,874,139
他会計振替額	0	0	0	16,607,554	0	16,607,554	△ 16,607,554		0
税引前当期一般正味財産増減額	47,236,866	0	47,236,866	△ 203,107	0	△ 203,107	70,840,380	0	117,874,139
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	0	0	0	0		0
法人税等調整額	0	0	0	0	0	0	0		0
当期一般正味財産増減額	47,236,866	0	47,236,866	△ 203,107	0	△ 203,107	70,840,380	0	117,874,139
一般正味財産期首残高	58,530,437	0	58,530,437	203,046,179	0	203,046,179	178,660,510		440,237,126
一般正味財産期末残高	105,767,303	0	105,767,303	202,843,072	0	202,843,072	249,500,890		558,111,265
II 指定正味財産増減の部									
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0		0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0		0
III 正味財産期末残高	105,767,303	0	105,767,303	202,843,072	0	202,843,072	249,500,890	0	558,111,265

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

「公益法人会計基準」（平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会）を採用している。

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法  
満期保有目的の債券・・・償却原価法（定額法）によっている。
- (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
貯蔵品・・・先入先出法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっている。
- (3) 固定資産の減価償却の方法  
①有形固定資産・・・定率法によっている。  
②無形固定資産・・・定額法によっている。
- (4) 引当金の計上基準  
賞与引当金  
職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額の当期の負担分を計上している。  
徴収不能引当金  
未収会費に対して、徴収不能実績率により徴収不能見込額を計上している。
- (5) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 表示方法の変更

従来、「事業費」の「旅費交通費」として表示していた講師への謝礼について、より適切な表示を行うために当年度より「事業費」の「諸謝金」として表示することとした。なお、前年度における「事業費」の「旅費交通費」として表示していた講師への謝礼の額は、13,880,036円である。

### 3. 会計上の見積りの変更

従来より利用していた会員管理システム（現システム）について、保守管理会社からの契約解除通知により、令和2年11月30日をもって利用を停止することになった。

これに伴い、現システムのソフトウェアについては残存耐用年数に渡る将来の期間で損益を認識することとし、ソフトウェア仮勘定については、開発中止となり新システムに引き継ぐことができないため、除却処理することとした。

これにより正味財産増減計算書のⅠ一般正味財産増減の部の1. 経常増減の部の(2) 経常費用の事業費及び管理費の減価償却費が、従来の耐用年数で計算した場合に比べて、それぞれ 4,418,193 円及び2,485,232 円増加しており、2. 経常外増減の部の(2) 経常外費用にソフトウェア仮勘定除却損12,938,400 円を計上している。

以上より、Ⅰ一般正味財産増減の部の当期経常増減額、当期経常外増減額及び当期一般正味財産増減額が、それぞれ6,903,425 円、12,938,400 円及び19,841,825 円減少している。

### 4. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

（単位：円）

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
学術奨励基金	200,624,179	68,893	0	200,693,072
社会活動奨励基金	830,000	0	70,000	750,000
第37回学術大会特定資産	0	8,900,000	0	8,900,000
eラーニング新コンテンツ特定資産	0	40,000,000	0	40,000,000
事務所移転費用特定資産	0	20,000,000	0	20,000,000
合 計	201,454,179	68,968,893	70,000	270,343,072

5. 特定資産の財源等の内訳  
 特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
特定資産				
学術奨励基金	200,693,072	(0)	(200,693,072)	—
社会活動奨励基金	750,000	(0)	(750,000)	—
第37回学術大会特定資産	8,900,000	(0)	(8,900,000)	—
eラーニング新コンテンツ特定資産	40,000,000	(0)	(40,000,000)	—
事務所移転費用特定資産	20,000,000	(0)	(20,000,000)	—
合 計	270,343,072	(0)	(270,343,072)	—

6. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高  
 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物付属設備	10,233,675	9,593,237	640,438
什器備品	16,514,830	15,576,843	937,987
合 計	26,748,505	25,170,080	1,578,425

7. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益  
 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
第61回利付国債（20年）	100,413,235	103,958,645	3,545,410
第139回利付国債（20年）	99,719,546	117,370,000	17,650,454
合 計	200,132,781	221,328,645	21,195,864

8. 退職給付関係

- (1) 採用している退職給付制度の概要  
 確定拠出型の制度として規約型企業年金制度を設けている。

- (2) 退職給付費用に関する事項

(単位：円)

① 勤務費用	1,080,000
--------	-----------

9. 金融商品の状況に関する事項

- (1) 金融商品に対する取組方針  
 財産の運用は、元本が回収できる可能性が高い方法で行わなければならない、運用に当たっては、その時々を経済及び金融情勢により、一定のリスクはあるが、高い運用益の得られる可能性のある方法で行うものとする。

- (2) 金融商品の内容及びそのリスク

普通預金及び国債（債券）であり、債券については、僅少ではあるが発行体の信用リスクにさらされている。

- (3) 金融商品のリスクに係る管理体制

金融商品の取引は、当法人の財産管理規程に基づき行い、債券については、発行体の状況を定期的に把握し、理事会に報告する。

10. 受取会費減少額の主な要因について

前年度において、20,637,000円の未収会費を計上したこと、当年度より65歳以上の会員に対して4,949,000円の会費減免を実施したことにより、受取会費が前年度に比べて減少している。

# 附属明細書

## 1. 特定資産の明細

特定資産の明細は、財務諸表に対する注記「4. 特定資産の増減額及びその残高」に記載しているため省略する。

## 2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	1,146,165	1,970,856	1,146,165	0	1,970,856
徴収不能引当金	4,579,740	5,440,260	4,380,000	0	5,640,000

# 財産目録

令和2年3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		物量・場所等	使用目的等	金額
<b>(流動資産)</b>				
現金預金	現金預金	手元保管現金	運転資金として保有している。	423,803
	普通預金	りそな銀行芝支店	運転資金として保有している。	248,432,805
		みずほ銀行東京中央支店	運転資金として保有している。	9
		三井住友銀行浜松町支店	運転資金として保有している。	823,330
	未収会費	2019年度会費	公1事業及び管理運用の用に供している。	247,609,466
	未収金	JART誌企業広告3件／求人広告2件、被ばく低減施設認定料5件	公1事業の用に供している。	22,560,000
	貯蔵品	切手、統一講習会講師用バッジ他	公1事業及び管理運用の用に供している。	785,270
	前渡金	事務所賃料他	公1事業及び管理運用の用に供している。	199,517
	立替金	職員交通費立替	管理運用の用に供している。	4,253,133
	1年以内回収予定長期貸付金	学術教育奨励貸付金	相互扶助事業の用に供している。	134,130
	仮払金	学術大会開催運営費他	公1事業及び管理運用の用に供している。	350,000
徴収不能引当金	徴収不能額を見積もったときの引当金		5,019,900	
			△ 5,640,000	
<b>流動資産合計</b>				276,518,558
<b>(固定資産)</b>				
<b>特定資産</b>				
学術奨励資産	学術奨励資産	第61回利付国債(20年)	相互扶助事業の用に供している。	100,413,235
		第139回利付国債(20年)	相互扶助事業の用に供している。	99,719,546
		りそな銀行芝支店 普通預金	相互扶助事業の用に供している。	560,291
	社会活動奨励基金	りそな銀行芝支店 普通預金	相互扶助事業の用に供している。	750,000
	第37回学術大会特定資産	三井住友銀行浜松町支店 普通預金	学術大会開催運営費他の積立資産であり、公1事業の用に供するための特定費用準備資金である。	8,900,000
	eラーニング新コンテンツ特定資産	三井住友銀行浜松町支店 普通預金	新たなe-learningコンテンツ、講習会費用の積立資産であり、公1事業の用に供するための特定費用準備資金である。	40,000,000
	事務所移転費用特定資産	三井住友銀行浜松町支店 普通預金	事務所移転の公益目的事業分費用の積立資産であり、公1事業の用に供するための特定費用準備資金である。	20,000,000
<b>その他固定資産</b>				
建物付属設備	スチールパーテーション設備工事他	共有財産であり、うち66%は公益目的保有財産として、公1事業の用に供し、34%は管理運用の用に供している。	640,438	
什器備品	事務所デスク等備品費他	共有財産であり、うち66%は公益目的保有財産として、公1事業の用に供し、34%は管理運用の用に供している。	349,705	
	サーベイメータ6台	公益目的保有財産であり、公益目的事業の為に保有している。	523,482	
	AED	管理運用の用に供している。	64,800	
ソフトウェア	会員情報システム	共有財産であり、うち64%は公益目的保有財産として、公1事業の用に供し、36%は管理運用の用に供している。	12,115,509	
	PCA会計・給与システム	管理運用の用に供している。	587,737	
	ホームページ管理ソフト	公益目的保有財産であり、公益目的事業の為に保有している。	534,600	
	e-learning視聴管理システム	公益目的保有財産であり、公益目的事業の為に保有している。	523,260	
	JARTISオプトイン機能追加	共有財産であり、うち64%は公益目的保有財産として、公1事業の用に供し、36%は管理運用の用に供している。	333,726	
長期貸付金	奨学金貸付	相互扶助事業の用に供している。	1,050,000	
差入保証金	世界貿易センタービル事務所及び倉庫	共有財産であり、うち66%は公益目的保有財産として、公1事業の用に供し、34%は管理運用の用に供している。	35,256,642	
<b>固定資産合計</b>				322,322,971
<b>資産合計</b>				598,841,529
<b>(流動負債)</b>				
未払金	支払手数料、未払消費税他		27,712,643	
未払費用	社会保険料		1,073,844	
預り金	県会費預り金他		9,972,921	
賞与引当金	賞与支給の引当金		1,970,856	
<b>流動負債合計</b>				40,730,264
<b>(固定負債)</b>				
<b>固定負債合計</b>				0
<b>負債合計</b>				40,730,264
<b>正味財産</b>				558,111,265

# 独立監査人の監査報告書

令和2年4月21日

公益社団法人 日本診療放射線技師会  
理事会 御中

大 光 監 査 法 人

東京都新宿区

代 表 社 員 公認会計士  
業 務 執 行 社 員



## <財務諸表等の監査>

### 監査意見

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づき、公益社団法人日本診療放射線技師会の平成31年4月1日から令和2年3月31日までの平成31・令和元年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドラインI-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、あわせて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続事業の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続事業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

## 財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続事業を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続事業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続事業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続事業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

### <財産目録に対する監査>

#### 財産目録に対する監査意見

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づき、公益財団法人東京都公園協会の令和2年3月31日現在の平成31・令和元年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

#### 財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。



## **財産目録に対する監査における監査人の責任**

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

## **利害関係**

法人と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

令和2年4月21日

大光監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 亀岡保夫 殿

公益社団法人 日本診療放射線技師会

会 長 中 澤 靖 夫

財務担当理事 小 田 正 記



本確認書は、当公益社団法人の平成31年4月1日から令和2年3月31日までの平成31・令和元年度の貸借対照表（貸借対照表内訳表を含む。）、損益計算書（公益認定等ガイドラインI-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいい、正味財産増減計算書内訳表を含む。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書（以下「財務諸表等」という。）が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、全ての重要な点において適正に表示しているかどうかについて、並びに令和2年3月31日現在の平成31・令和元年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて貴監査法人が意見を表明するに際して提出するものです。私たちは、下記のとおりであることを確認します。

#### 記

#### 財務諸表等及び財産目録

1. 私たちは、令和元年7月1日付けの（平成31・令和元年度に係る）監査契約書に記載されたとおり、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成する責任（継続事業の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、継続事業に関する必要な開示を行う責任を含む。）を果たしました。財務諸表等は、我が国において一般に公正妥当と認

- められる公益法人会計の基準に準拠して当公益社団法人の財産、損益（正味財産増減）及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示しております。
2. 私たちは、令和元年7月1日付けの（平成31・令和元年度に係る）監査契約書に記載されたとおり、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成する責任を果たしました。
  3. 不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等及び財産目録を作成するために、理事者が必要と判断する内部統制を整備及び運用する責任は理事者にあることを承知しております。
  4. 時価による測定を含め、会計上の見積りを行うに際して使用した重要な仮定は、合理的であると判断しております。
  5. 関連当事者との関係及び取引は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して適切に処理しております。
  6. 決算日後本確認書の日付までに発生した財務諸表等及び財産目録に重要な影響を及ぼす事象は、全て計上又は注記されております。
  7. 財務諸表等及び財産目録を作成する場合にその影響を考慮すべき、既に認識されている又は潜在的な訴訟事件等は全て、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して適切に処理しております。
  8. 未修正の虚偽表示が及ぼす影響は、個別にも集計しても財務諸表等及び財産目録全体に対して重要ではないものと判断しております。
  9. 貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表は、公益認定等委員会で認定された事業に区分しております。
  10. 正味財産増減計算書内訳表で表示されている各会計区分の事業費及び管理費は直接関係が見いだせる損益は直課し、共通に発生するものは当公益社団法人の実態に応じて定めた配賦基準に基づき合理的に配賦しております。
  11. 財産目録の「使用目的等」の記載については、適切に開示しております。

#### 提供する情報

12. 貴監査法人に以下を提供いたしました。
  - (1) 記録、文書及びその他の事項等、財務諸表等及び財産目録の作成に関連すると認識している全ての情報を入手する機会
  - (2) 本日まで開催された評議員会及び理事会の議事録並びに重要な稟議書
  - (3) 貴監査法人から要請のあった監査のための追加的な情報
  - (4) 監査証拠を入手するために必要であると貴監査法人が判断した、当公益社団法人の役員及び職員への制限のない質問や面談の機会
13. 全ての取引は会計記録に適切に記録され、財務諸表等及び財産目録に反映されております。

14. 不正による財務諸表等及び財産目録の重要な虚偽表示の可能性に対する理事者の評価を貴監査法人に示しております。
15. 当公益社団法人に影響を及ぼす不正又は不正の疑いがある事項に関して、以下の全ての情報を貴監査法人に提供いたしました。
  - － 理事者による不正又は不正の疑い
  - － 内部統制において重要な役割を担っている職員による不正又は不正の疑い
  - － 上記以外の者による財務諸表等及び財産目録に重要な影響を及ぼす可能性がある不正又は不正の疑い
16. 職員、元職員、行政庁等又はその他の者から入手した財務諸表等及び財産目録に影響を及ぼす不正の申立て又は不正の疑いがある事項に関する全ての情報を貴監査法人に提供いたしました。
17. 財務諸表等及び財産目録を作成する場合にその影響を考慮すべき違法行為又は違法行為の疑いに関して認識している全ての事実を貴監査法人に提示いたしました。
18. 財務諸表等及び財産目録を作成する場合にその影響を考慮すべき訴訟事件等又はそれらの可能性に関して認識している全ての事実を貴監査法人に提示いたしました。
19. 関連当事者の名称、並びに認識された全ての関連当事者との関係及び関連当事者との取引を貴監査法人に提示いたしました。




以 上

# 令和元年度監査報告書

令和2年4月21日

公益社団法人日本診療放射線技師会  
会長 中澤 靖夫 殿

公益社団法人日本診療放射線技師会

監事 空野 中 廣  印  
監事 新聞 英 秀  印  
監事 小川 利 政  印

私たち監事は、平成31年4月1日から令和2年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

## 1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

## 2 監査の意見

### （1）事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

### （2）財務諸表及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

財務諸表及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上